

しらさぎ24訪問介護看護ステーション
第2期 第7回 介護・医療連携推進会議 報告書

開催日時	平成30年3月16日(金) 18:30～20:00		
出席者 (10)名	◆利用者(－)名 ◆利用者家族(－)名 ◆地域住民代表(－)名 ◆民生児童委員(1)名 ◆医師(－)名 ◆地域包括支援センター(2)名 ◆連携訪問看護(1) ◆中野区介護サービス事業所連絡会 ・訪問看護部門(1)名 ・介護支援専門員部門(1)名 ◆事業所職員(4)名		
討議期間	平成29年12月11日～平成30年3月10日		
利用状況 (平成29年3月10日現在)	現在利用者数 (21)名	延べ利用者数 (61)名	
	要介護1…9名	要介護2…3名	要介護3…2名
	要介護4…2名	要介護5…4名	申請中…1名
	・新規利用開始…8件 ・利用終了…4件 ・訪問看護(連携型)利用…9件 (医療保険での訪問看護…4件)		
(1) 報告事項 質疑応答、要望、助言等	[報告事項] ○現状報告 ・看取り前提で在宅に戻り、定期巡回をターミナルケアとして利用し、短期間で終了というケースが依然として多い。利用相談の内容自体、ターミナルに限らず退院に合わせての利用開始のケースが、他サービスからの移行と共に多い状況。 ・要介護度が低い方に関する相談が増加傾向で、対応が難しくなるケースもある。 Q:要介護度が低く対応が難しいのは、認定結果に疑問がある(或いは区分変更を検討するような状態変化がある)という事か、要介護度に比して要望過多という事か。 A:両方のケースがあるが「思い通りに使い放題」「生活全般24時間全てお任せ」という勘違いをされるのは困る。 ・人材難もあって中央線以南の訪問は難しい状況。南側への訪問依頼に対して他事業所への相談を勧めざるを得ないケースもあった。 ・訪問介護事業の提携先(チームメイト)1件増加 (H30年1月～城西)計8事業所に10名の利用者の援助を一部委託している。 ・土、日曜日は委託先でも稼働するヘルパーが少なく、協力を得ることが困難な状況は変わらない。 ○今後の取組み ・上述通り利用者数が増加しても安定的な維持ができない状況が続いているため、継続的な営業活動は必要。ただし、安定的なサービス提供を行える状況を作るため、闇雲な営業はせず北部圏域を中心とする。 ・チームメイト事業所の土、日曜日稼働者が少ないのは自事業団の登録ヘル		

しらさぎ24訪問介護看護ステーション
第2期 第7回 介護・医療連携推進会議 報告書

	<p>パーと同様。しらさぎ24固有職員のみに近い現状での対応には限界があり、利用者増に向けてのネックとなっている部分でもあるため、人材確保が急務となっている。チームメイト増に向けた営業活動も継続的に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材確保と共にサービスの質の向上が必要であり、チームメイトを含めた全員の技術、接遇両面のスキルアップを目指し、固有職員の研修、チームメイトへの指導の強化を行う。 ・サービスの標準化を目指し、手順書更新や申送り等、情報伝達・共有の徹底が必須なので方策の検討をする。また、連携する訪問看護との関係性においても同様のことが言えるため方策を策定し、現在実施検証中。
(2)苦情、意見等 0件	
(3)事故等 7件	<ul style="list-style-type: none"> ・服薬 2件…①確認ミス ②伝達ミス <ul style="list-style-type: none"> ①緊急の受傷処置に伴う失念に同日の次回、次々回訪問時に行うべき確認と介助の不履行が重なった。 →自事業所、チームメイトに再徹底を指示。 ②チームメイト事業所内での伝達ミス。 →確実な情報伝達を申入れ。チームメイト事業所のヘルパーとの直接連絡の可能性も検討。 ・不参 1件…スケジュール管理ミス。 <ul style="list-style-type: none"> ・追加訪問の依頼を受けた職員が、だいぶ先の事だからと保留したままスケジュール変更を忘れた。 →スケジュール変更がある場合は、暫定的にでもその場で変更処理をする。 ・施錠忘れ 2件…職員のうっかりミス。 →確認作業を徹底する。
(4)その他	<ul style="list-style-type: none"> ・制度改正により、介護・医療連携推進会議会議の開催が半年に1回で良いことになったが、開催回数減は情報提供やご意見をいただく貴重な機会の減少でもあるので、機会の確保と委員各位の負担軽減の両立を図るべく、来年度は3ヶ月間隔の開催→4ヶ月間隔の開催とする。
次回開催予定	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年7月中旬